

●座談会・日共政権・この夢と現実の落差

いか、ともいわれております。一部のマスコミなどは、日本に革新政権が誕生する時は、北欧の社会民主主義型でなく、イタリアなど南欧の社共統一戦線型になるだろうと予測していますが……。

大前 日本もイタリアのようになるのではないかと、ジャーナリズムでも騒がれているのですが、たしかに似ている面があるわけですが、しかし、相違点もありますからね。その相違した重要な点をあげてみますと、第一に、イタリア共産党は第二次大戦中に、レジスタンスとして戦っています。共産党というのは、戦わないとなかなか政権は握れないという面があるのではないのでしょうか。これに対し、日本では、戦時中に治安維持法と闘ったといわれますが、イメージとして、イタリアとは違っています。

第二に、イタリアの場合、共産党に投票した人は、その次もだいたい共産党に投票するといった面があります。ところが、日本の場合は、無政党というのですか、政党離れしています。次も共産党に投票するとは限りません。第三に、イタリアでは、共産党が地方自治体の首長として実際に実績

をあげていますが、日本では関西でなっているだけで、特殊な孤立したケースではないでしょうか。

それからもう一つ、イタリア人というのは、どうも国家観念が薄い。国家がものすごい借金をしていても、平気である。悪い言葉で言えば、乞食根性的なところがある。日本人は、まだそこまでは落ちていないんじゃないでしょうか。

中嶋 私、つい先日ヨーロッパへ行ってきたばかりです。今回はイタリアには寄りなかつたのですが、パリでの感触によると、六月の選挙で、予想どおり共産党の勝利という展望と、いや、そこまではいかならないという見方が五分五分でした。

ともかく、イタリアにはイタリア・コミニズムの長い伝統がありますし、レジスタンスや憲法制定闘争の歴史がありますね。北部では各地に「陽気なドン・カミッロ」もいます。そのイタリアでさえ、グラムシ、トリアッチ以来の長い歩みの末に、今日、「歴史的妥協」といわれる状況の中で、初めて共産党が陽の目を見るか見ないかというところですね。そこへいきますと、日本

共産党に、はたしてそれだけの根があるかどうか。

村上 なるほど。しかし、仮に参院選などで保革逆転して、一角がくずれますと、日本の場合、ムード的といえますか、ナダレ現象が起こりやすい。ですから、これから八〇年代にかけて、いろんな意味で警戒すべきではあると思うんです。自民党一党による過半数支配時代の終焉は確実と思われまします……。

中村 さしあたって、今年中に衆院選があるわけですね。現在、野党四党合わせても二百議席あるかないかですが、今度の選挙で二百六十以上とらえないと過半数になりませんから、まあ今年には保革逆転はありまじせんでしょう。一方、参院ではどうかという、単純に保守と革新と分けて、革新を算術的に足せば、過半数になる可能性があるかもしれない。問題は単純に算術計算していいかどうかです。

そこで統一戦線ということになってくるんですが、京都府知事選をまみしても、三回目までは社共で蟻川さんを推したわけですから。しかしこの間の選挙では社会党は別の

特別座談会(民主連合政府・事前研究)

"日共政権" この夢と現実の落差

●日本の安全をめぐる集中討論



中村勝範 大前正臣 中嶋嶺雄 司会村上薫

保革接近から逆転が口にされはじめた最近の政情：日本の革新政権は南欧・社共統一戦線型かともいわれているが、もしそんな政権が誕生したら、われわれの生活はどうなるのだろうか。そして日本の安全保障は：現在、日本をとりまく米、ソ、中国、アジア情勢を集中論議してもらった。

イタリア式革新政権

村上 今日、近い将来、日本に果たして革新政権が誕生するか、そうならば、日本の安全はどうなるかという問題を中心にお話し合いたいと思います。ご存知のように、今年中に衆院の解散・総選挙がありますが、ロッキード事件によって自民党は苦戦を免れないようです。ことに来年の参院選では、現在の保革差わずか六票の差が、逆転する可能性もあり得ます。それはひいては衆院選にもびびっていくわけですが、こういってことを繰り返していくうちに、やがて日本でも一九八〇年代には革新政権が誕生するようになるのではな

候補を立てた。大阪府知事選でも、同じ現象が起きています。このように、二度、三度とやっているうちに、革新内部における勢力争い、対立が起きてくる。これは地方選挙の場合です。いわんや国政レベルにおいて、たとえ過半数をとったとしても、革新統一政府ができるかどうか。

国際情勢の変化しだいで

大前 日本に革新政権が成立するかどうかという問題は、私の考えでは、日本をめぐる国際情勢いかんによる、といえると思います。国際情勢に一大変動が起きて、たとえば、日米安保体制が崩れかけた時、それがきっかけになって共産党主導型の革新政権ができるんじゃないかと。私が非常に危険に思うことは、日本の内部事情よりも、むしろ、アメリカ側の態度いかなんではないかということなのです。

最近アメリカへ行ったり、議会とか大統領選なんかをみていますと、アメリカの孤立思想というものを強く感じられます。たしかに、日米間には安保条約というものがある。しかしアメリカ国民には、//日本離

れ//アジア離れ//している面が強く感じられます。私は、そのことを一番危惧しているんですよ。

中村 昨年の六月十八日でしたか、キッシンジャー国務長官がニューヨークのジャパン・ソサエティで演説しましたね。あの中で、アメリカと軍事同盟を結んでいる国で、もしそれが嫌な国があったら、いつでも申し出てくださって結構、いつでも破棄しますよ、という意味のことを言っていたと思うんですが。

大前 アメリカのポリティックの一番基本的な問題は、世論があつて、議会があつて、その議会が大統領、行政府より優位に立っているということだと思います。ベトナム以後とくにそうなので、キッシンジャーも世論を抜きにしては外交政策は立てられないわけです。ですから、今までのようなキメの細かい外交政策はもう機能しないと、彼は痛感したんじゃないかと思われまます。そうすると、日本はアメリカにとって必要欠くべからざるもの、と理論的には認めていても、アメリカ国民の感情的世論として、そうでないという声が出てくれば、

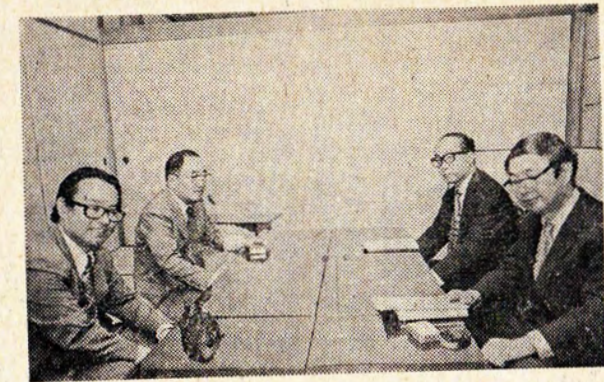
もう彼にはどうしようもないという、諦めに似た、ベシミスティックな気分にもなると思うんですよ。

中嶋 たしかに、民衆レベルにおいて、//日本離れ// //アジア離れ// が出てきているのかもしれないね。ただ、にもかかわらず、片方では、キッシンジャーの演説もそうだし、フォード大統領の「新太平洋ドクトリン」にもみられるように、やはり日米関係は重視しなければいけない、という考え方がリーダーのあいだで強く出ていると思うんです。そういう状況の中で考えますと、日米安保体制というのは、ロッキード問題なんかで、日米関係が少しギスギスしている点がありますが、しかし戦後の国際関係の中で、日米安保体制がこれほどまでに安定したというか、国際的なイシュー（論争点）にならなくなった時代はないのではないかと。つまり、日米安保体制に反対する勢力はほとんどなくなってしまったような気がする。中国も態度を変えましたし、ソ連もクレームをつけてこない。

日本国内の革新勢力をみても、従来は幻想的な見方でしか見ていなかったのが、最

近の国際環境にひきずられて、従来よりも、どちらかというところ、よりリアルに安全问题、防衛問題に取り組むようになった。私など見えていますと、革新連合なり共産党が今後、日本で世論の支持を得た形で政権の座に近づいていくためには、どうしても安全保障の問題について、もっと現実的にならざるを得ないと思うんです。

村上 その共産党ですが、現在、なぜあんなに安保にこだわっているのか。私が思っていますに、安保さえなくしたなら、日本において無血革命ができると考えているからなんだと思うんです。実は、ソ連の軍事力は現在、猛烈なピッチで拡大中で、この間も、アメリカの海軍作戦部長が国会の証言で、「米海軍はすでに日本海での制海権を失った」と発言しましたが、ソ連海軍は千四百隻保有していて、アメリカは五百隻、三分の一です。また日本周辺の航空基地を見ても、ソ連の基地空軍力が逐次増強されています。とくに航統距離の長い長距離爆撃機バックファイアーなどが配備され



左から中嶋、大前、中村、村上の各氏——新宿・柿傳にて

つばい日本周辺を取り囲むようになっていと思うが、その場合、もし安保がなくなると、米第七艦隊がいなくなったら、自衛隊なんか目じゃないですよ。そうして、日本はフィンランド化するだろうし、はっきり言って共産党は無血革命ができる、と言え

ると思うんです。安保について、ほかの野

党は柔軟な構えですが、共産党が妥協しないのは、その辺をにらんでいるからだと思

います。

中村 共産党は、連合政府をつくるということを目標にしているわけなんです、民主連合政府に加わるものは、二つの点で合意するものならいいというんですね。一つは自民党政府を倒すこと。いま一つは日米安保の廃棄。ですから、もしそういう政権が出来た時、日本の周りはソ連軍事力によって囲まれていきますから、日本の革命は一挙に可能だ、という仮定は成り立つと思

いますね。

大前 日本国内だけの政治状況だけでは共産党主導型の革新連合政権は出来ないだろうと、私は予想しているのですが、いまお話が出たように、軍事的に日本がソ連の影響圏に置かれるといったような場合は、まさに日本をめぐる国際情勢の一大変化が起きたわけで、たしかに、そうした政権が出来る可能性は十分ありますね。

日本共産党の政権構想

村上 まあ、革新政権とか共産党主導政

権といっても、これは仮定の上に立っていることになるのだが、中村さん、日本共産党の政権構想はどうなっているんでしょうか。とくに安全保障に関して……。

中村 日共の場合、政権構想を三段階に分けています。第一段階は民主連合政府の段階で、自民政府を倒して日米安保を破棄する。自衛隊はさしあたって現状のまま、やがて連合政府に参加した政党が一致して廃棄するという事です。一般のマスコミは、日共の政権構想を民主連合政府が出来た段階でしか取り上げていませんが、実は三段階まであるんです。それで第二段階が、独立民主の日本の段階というんです。第三段階が、社会主義日本の段階。

ところで、この「民主連合政府綱領」についての日本共産党の提案はマスコミでもいろいろ取り上げられたのですが、私に言わせると、『赤旗』に右の論文の前に載った『民主連合政府綱領』についての日本共産党の提案を発表するにあたっての方がもっと重要なですよ。それと、この論文が発表された『赤旗』の一面に載った宮本委員長の記事の見聞記事です。それによ

ると、第一段階でとどまるのではなくて、第二、第三段階に進めて、そこで現行の憲法を廃止し、新憲法をつくって、その中に自衛のための軍隊を持てるようにはつきり書き込むというのです。ですから、共産党が独自の軍隊を持つというのは、仮定の問題ではないわけなんです。

まず社会党の構想ですが、檜崎弥之助、田英夫氏ら、新しい流れの会グループの提案によりまして、八〇年代にかけて保革逆転して革新連合政権樹立の方向になる。そのため三段階をもうけて、安保、自衛隊の段階的解消をはかる。第一段階は暫定連合政権の段階ですが、ここでは自衛隊は現状凍結。安保にはいっさい手をふれない。第二段階で、やや革新寄りとなった中道連合政権をつくり、安保解消を準備する。自衛隊は定員二十六万を十七万六千に減らす。第三段階に入って初めて、革新統一政権をつくり、安保を廃棄する。しかしアメリカとの関係は切れないので、安保に代わる日米平和友好条約をつくる。自衛隊は解消し

て、五万名の国土平和建設隊と国民警備隊——これは十二万名のミニ軍隊ですが——をつくる。まあ、非武装中立・安保即時廃棄を唱えていた社会党としては画期的な変化です。公明党はどうかと言いますと、具体的には領土、領空、領海の領域保全能力を持った警備隊は認めてよろしい、と言っています。また昨年の十月の大会で、従来唱えていた安保即時廃棄を外交交渉による同意を経た上で廃棄する、と柔軟になっています。民社党は、従来安保の段階的解消、駐留なき安保と言っていたのを、積極的な安保評価というふうに変化しています。

このように見てみますと、各党とも微妙な変化を見せ始めてきているわけです。大前 キッシンジャーがデトロイトでの演説で、たしか日本のことにふれて、日本は軍事力のバックアップなしに政治的に行動できると考えてやっているようだが、それは一つのトライアル（そういうった文句だったかはつきり覚えていませんが）であり、テストである。しかしそのテストには日米安保が重しになっている……といったように記憶しています。これは日本に対しての

ソ連の存在が大きい

中嶋 ソ連が日本の周りを取り巻くようになれば、日本共産党も政権に一步近づくといいご意見が出ましたが、それに共産党が乗るといよりは、いわば日本の愛国心なりナショナリズムに乗った形での、そしてセキュリティ(安全)の問題について、共産党がそれなりの転換をして初めて、政権に就けるような気がしますね。そうなりますと、ソ連が日本の周りを取り巻くという状況に対して、日共は、かなり警戒的になるんじゃないでしょうか。つまり、そこに一つのフリクションが起こるんじゃないかという気がするんです。ソ連の包囲網のもとでは日米安保体制についても、あるいは日米関係についても、むしろそれを評価する方向に、共産党は変わるんじゃないかという気がするんです。

中村 宮本委員長は自主独立だとかなんとか言っていますけれども、実際には一九六八年のチェコ事件における第二のドブチエクになる可能性もあります。フランス共産党やイタリア共産党はソ連離れになってきて、NATOを承認したとか、ECを認めるとか言っているんですが、それでは日本の共産党もソ連離れできるかというところ、私はできないんじゃないかと思うんです。なぜなら、ソ連とイタリアとの間には自由主義国のオーストリアがありますし、反ソとまでいわなくとも、非ソ連のユーゴスラビアがありますし、フランスとソ連との間には西ドイツがありますし、強い防波堤があるんですが、日本にはそれがありません。

中嶋 いまのご指摘はよく分かります。けれども、日本共産党がもしも政権の座に就けるとい場合には、やはりもっとも国際政治の現実なり、国内の現実なりに対して妥協してこなきゃいけないですね。あるいは、いま一般民衆やマスコミが持っている疑念に対して、かつての毛沢東の民族統一戦線ないしは連合政府論のように、もっと根底的に擬装しなきゃいけない、極

端に言えばですがね。最近、「プロレタリア独裁」という言葉をひっこめるとか、「マルクス・レーニン主義」という言葉をひっこめるとかやっています。でも、もしも政権獲得の可能性があるとすれば、日本共産党の場合、もっとイタリア型に徹する、つまりソ連から離脱する、従来のコミンテルン以来の、日共の背後にはソ連あるいは中国がいる、というイメージから独立することによって、初めて支持が得られるんじゃないかという気がするんですよ。

そうしますと、むしろ日本を取り巻く国際環境の中で、ソ連の脅威が非常に強いんだというご指摘は、まさにそのとおりだと思いますが、しかし日本国内にはソ連嫌いのムードがまだありますし、ソ連と日共との関係を現状より強化するとなると、日共が政権をとる可能性はそれだけ少なくなるんじゃないかという気がします。ですから、日共政権が仮定の問題なら、同様に、今後のソ連、中国も、いまのソ連、中国ではなく、ずいぶん変わったソ連、中国が出てくるという仮定の上で、議論した方がいいような気がするんです。

村上 そのとおりですね。共産党の不破書記長が『日本の中立化と安全保障』という論文の中で、「中立は平和政策の唯一の形態でもなければ、最高の形態でもない。できることなら社会主義国と積極的に同盟する道を選びたい」と言っていますが、それなら、中ソと同盟を結ばないかというところも言えない。いまの中ソ関係ではですね。したがって、いま中嶋さんがおっしゃったように、変わった中ソが出てくるという仮定で考えてみるべきなんですね。

中国、ソ連も変わる

中嶋 それはまさに、中ソ関係がどうなるかということ、また毛沢東亡きあととの中国がどうなるか、ということに当面は尽きるわけですね。たとえば、毛沢東亡きあと中国に現在の毛沢東主義者ではない連中が出てきた場合、どうなるであろうか。むしろその時のほうが、わが国に対しては非常に脅威になるような気がします。というのは、日本共産党は、かつては中国共産党との間は良く、一九六五年までは中国路線で

したね。それが決裂して、現在の状況になっていきます。しかしいわゆる実権派勢力に対しては批判したことはありません。かつて彭真北京市長とか劉少奇、鄧小平とか実権派とは関係が良かったわけです。ですから、いわゆる実権派勢力がポスト毛に出てきた場合、合理的思考を持ち、強固な党官僚システムを持った新しい中国の政権と、従来よりも強くなった日共と結ぶ可能性も出てくるでしょうから、そのほうが日本にとって脅威になるような気がします。

村上 そうしますと、中ソの限定的和解があり得るということですね。

中嶋 そうなんです。もう少しつきつめて考えてみますと、日本共産党は、現在の宮本イズムを追求する限り、ソ連にベッタリはできないわけです。ところが、中国にも非毛沢東的政権が出来たら（ソ連はまさにそれを期待しています）どうなるでしょう。ソ連はいま天安門事件以後の中国の情勢をじっと見ていて、たとえば、一九八〇年に期限切れになる中ソ友好同盟条約などをどう考えているかなんていう問題もあるのですが、これを廃棄するとは言って

いませんね。この間、私はモスクワに行くと、向こうの最高レベルの政策決定にあずかっている人びとと議論し合ったのですが、中国はもう二、三年後には大きな変化の道を歩み始めるであろう、したがって、中ソ友好同盟も廃棄せず、将来のために根を残しておく、といった態度でした。

中国の今後の予測は非常にむずかしいんですが、さまざまな激動や紆余曲折のうちに最後のにはどうも私は、走資派路線、あるいは周恩来路線に行く可能性が強いような気がしますね。そういう状況になりますと、彼らは非常にリアルにものを考えてきますから、その時にソ連と一定の和解を遂げて、そしてハノイや北朝鮮とも一定の和解を遂げる。さてその時、日本に民主連合政権が出来たら……これは宮本イズムの延長線上に想定されるラインじゃないかと思うんですが、その可能性は高く、これが一番、こわいと思うんです。

大前 それは、中ソが和解したら、ということですね。そして、そのインパクトとして、共産党主導政権に非常に近い雰囲気、国内的な状況が出てくるというわけですね。これは日米関係を重視していききたいわけですよ。

韓国、台湾の重要性

村上 ただそれも、一挙に共産党政権まで——社共連立統一政権まではいかないで、自民党の一党独裁が終わっても、社公民と保革連合が出来たり、いろんな型でいくと思えます。しかし、そのように国際情勢が変わっていきますと、国内的にも非常に危機感があふれてきますね。

大前 日本の歴史を振り返ってみても、日本の周囲の国際情勢が危機的状況になると、日本は体を硬くしてしまふ、非常にナショナルスティックになる。右のほうに寄る、そういう反応の仕方をするんじゃないかと思うんです。そうしますと、アメリカ離れじゃなくて、むしろ日米関係をもっと大事にしなければならぬではないでしょうか。あの文革のすぐあとぐらいに総選挙がありました、あの時、社会党は相当後退したんではなかったでしょうか。

村上 もっとも、アメリカだってそういった国際情勢の変化に対し、ただ黙って見ているわけじゃありませんから……。たしかにアメリカは、ベトナム・ショックで後退しているように見られますが、しかし、い

まやアメリカは、軍事力はともかく、経済力は非常に強くなっているそうです。ベトナム戦争の重荷もなくなりましたし、アラブ原油の値上がりで国内の原油の方が安くなり、エネルギー面での国際競争力がものすごく強くなっています。中国の歴史に前漢、後漢というのがありますが、ベトナム以前のアメリカを「前米」とすれば、今後は明らかに、「後米」の時代になるでしょう。だから、社会党にしたって、左派以外は、アメリカとの関係を非常に深めようとしています。

大前 いまアメリカは大統領選中で、多少誇張されている点もあるんですが、やはりソ連は最大の仮想敵国ですよ。日本に対しては、社会党にはかなり融和的態度をとっていますが、共産党に対しては、はっきり一線を画しています。またヨーロッパに対しては、左傾しつつあるヨーロッパに諦めを抱きはじめている。そんなふうには見えています。やはりなんといつても、第二次大戦という大きな犠牲をはらった末、政治的自由を植えつけることができたのは日本と西ドイツだけです。だから、当事者と

村上 韓国、台湾との関係も、日本の安全保障を考える上では大切な問題だと思えます。とくに革新政権というものを前提とした場合……。もっとも、朝鮮半島が北によって武力統一でもされたら、これはもう左右の政権問題どころか、日本の国内政治に影響の波及することまことに大です。いまのところ南北の軍事力を見ますと、米軍がいなければ、北がやっぱり圧倒的に強いんです。米軍がいることによって、かろうじて安定が保たれているわけです。南北の軍事バランスを保つため、いま韓国は自主防衛力建設五カ年計画を進めています。少なくとも、フランスが保たれるまでの間は米軍にいらわなければ、北が攻めてこないという保障はないわけです。ただ米軍の場合も、自分だけでは韓国防衛をできない。日本という補給・兵站基地がなければ活動できませんから、ここが問題になります。

この前のベトナム終戦の時、朝鮮半島が非常に危機に陥ったので、日本政府は「やはり米軍にここ当分いてもらわねば」とアメリカに強く求めたのですが、その時のアメリカの答えは、「われわれが韓国に駐留する以上、日本もそれに対して協力してもらわなければならぬ」というものでした。つまり、日本の基地を自由に使わせてもらいたい、ということ、それについては三木・フォード会談で日本は合意した。革新政権、とくに共産党政権が出来た場合、それは全く不可能でしょうね。

中嶋 むしろ韓国、台湾問題において、今日話し合っているような問題は、より重要なような気がしますね。日本の場合は、場合によって、後戻りができるかもしれません。おそらく一回きりで、どうっていいことはないとも言えます。しかし、韓国や台湾の場合はもう、ひとたびそうなったら後戻りできませんでしょうね。その点で、影響力が非常に大きいんじゃないでしょうか。

ですから、共産党はともかく、社会党なんかで一番分らないのは、韓国とか台湾もつとも、与野党を含めて日本全体がそういう情性に甘んじていられたのは、ひとえに中ソ対立があったお陰だと思わなくては。しかし、これから状況が次第に変化し始めるかもしれないという、時間との闘いになりつつあるんですね。日本の安全も、やはり日中、日ソ関係の今後を十分に考えた上で選択していかねばいけないと考えているんです。

大前 私は、楽観的な面と悲観的な面と二つあるんです。楽観的な面は、いままでお話に出たように、日本がソ連の影響圏下に入った時、中ソ和解というような事態が出てきた場合、日本人にとって最大のアドバンテージ（課題）として防衛という問題が出てくると思うんです。その場合、仮に革新陣営が現実的な防衛政策を打ち出してくれば、なんだ、そんなことは自民党がすでにやっているじゃないか、別に革新政党を選ばなくてもいいじゃないか、という考え方が出てくるかもしれないと希望を持っている。それから、ヨーロッパなんかの場合、政府党が弱くなると、逆に野党が強くなる。ところが日本を見ていると、自民党

問題で、どういうビジョンを持っているのかということなんです。これは東南アジア全域をとっても言えることですね。

村上 保守連合みたいな型で、自民党の一部が加わっている間は安全保障問題もそんなに変化は起きないでしょうが、社共統一政権みたいなものが出来たら、今までの安全保障の路線と全く違ったものが出来てしまうんじゃないかな。

それで、そろそろ締めくくりとして、今後の日本の安全保障について、皆さんのご意見を一言ずつお願いしたいと思います。

日本の安全への前提

中村 私の考えている日本の安全保障というのは単純でして、日米安全保障体制以外の安全保障政策は、いまの日本をめぐる国際情勢のもとでは空想的ではないかと思うわけです。中ソの対立関係が多少やわらぐ可能性があるというご発言がありました。が、アメリカの学者なども、基本線においては、中ソは妥協できるような要素は見えていない、しかし将来あり得ることを常に考えてアメリカの外交政策を立てなければ

ならない——とされているようです。私も同感なのですが、しかし、日本を含めてアジアの集団安保なんていうものは、可能性はないのではないのでしょうか。やはり、自由主義陣営の一角として日本が存在していく以上は、日米安保を抜きにしての日本の未来はない、というふうに、私、素人なりに考えるんです。

中嶋 日本の革新政党の場合、セキユリティとかディフェンスという問題の受け止め方が、まだある種の価値観だけでなされている、そういう傾向があるような気がするんです。そして、現実の日本を取り巻く国際情勢をきめ細かく分析するということがなされていないんですね。自分の主観的価値基準というものを尺度にしているんです。そういうところから早く脱却しなければいけないと思います。

とくに日本の革新政党は、アジアの問題についての認識が根本的に欠如している、といえます。今までは、それでもよかったですと思いますが、もし政権を握るといようなことになるのだったら、いろいろ考えなきゃいけない時期に来ていると思います。

の結束が弱まると、野党間の結束も弱まってくるんですね。こんどのロッキード事件なんかでも、野党にとって最大のチャンスだと誰しも考えるところなんです。現実として野党政権を待望する声など、どこからも出てこない。

悲観的な面では、日本の新聞は、だんだん、ソ連、中国、また革新陣営に都合の悪いことは言わなくなってきたこと。国民というのは、大都市ばかりじゃなく、農村部はだいたい、いっばい意見を持っている人がいて、自民党を第一党にしているんですから、そういう声もどんどん報道すべきだと思わなければならない。それがなかなかしてくれません。

日米安保については、私、非常にとっぴなことを考えているんです。アメリカに孤立思想が強くなってきたので、いかにしてアメリカ人に日本の存在を認識させ、関心を持たせるかと考えたんですが、一つの方法として、軍事基地でもなんでも、アメリカ人をどんどん日本に來させて、人質にしてみましたなら、彼らの関心をつなげさせるのではないかと、一つのことを、一つの

心構えの問題として提供しておきます。

村上 革新政権が出来た場合、武装中立をして、中ソと軍事同盟を結びますと、一応、安全は保たれると思うんです。しかし、コストがずいぶん高くなります。いまの日本のように世界最低の軍事費のままですみません。だから、福祉政策なんでもこかへ飛んでしまいます。

一方、経済面で見ても、食糧自給率四三パーセントでは、いまの日本の人口を半分にしなければやっていけない。といって、ソ連や中国だって食糧はありません。しかも、社共統一政権が出来たりしたら、アメリカからの食糧供給はずいぶん窮屈になるでしょうね。

したがって、中国、ソ連との関係はできれば等距離にしておく。そして日米安保ももちろん必要。そうしてオーストラリア、ニュージーランド、カナダ、インドネシアといった、資源のある国とも友好関係を強めていく。こういった、経済の面のセキユリティといったことにも、これからの日本はもっと目を向けていかなければならないと思うんです。